



2020春闘シリーズ③

2020年春闘 事実上スタート!



経団連のトップである中西会長と連合トップの神津会長が、賃上げや雇用のあり方などを巡って東京都内で会談が行われました。これにより、2020年春闘が事実上スタートしました。今号では、経団連と連合の双方の主張を見ていくことにします。

△経団連主張△

○連合主張○

日本の賃金が先進国に比べて低いと指摘する。「これまで続いてきた賃上げの勢いは大事だということが前提」と賃上げの必要性については認めています。

また、「これまでの日本の仕組みをかなり見直さないとダメなところも出てきた」とも述べています。

経団連は、基本給を底上げするベースアップを「選択肢」とし、ボーナスなども含めて多様な賃上げを促していく考えにある。

連合としては、「賃金のうねりが社会全体のものになっているとは思えない」との考えにある。また、中小企業や非正規雇用を含めた幅広い賃上げを行うことによって、格差是正を進める必要があるとの考えを強調しています。

連合としては、ベアを2%程度、勤続年数に応じて増える定期昇給を含めて4%程度の要求を掲げていく方針となる予定である。

～2020年春闘の主な論点～

経団連		連合
ベースアップは選択肢。ボーナスなどを含めて多様な方式を検討	賃上げ	ベア2%程度 定期昇給含め4%程度
企業の競争力強化	目標	企業規模や雇用形態による格差の是正
業績横並びの交渉を疑問視	交渉方式	統一交渉を継続
年功型賃金などの制度は時代に合わないケースが増えている	日本型雇用	日本型の良さが失われ、非正規雇用が増加した

労働者の結集で要求実現を目指していこう!